

# ヨコハマ人・まち

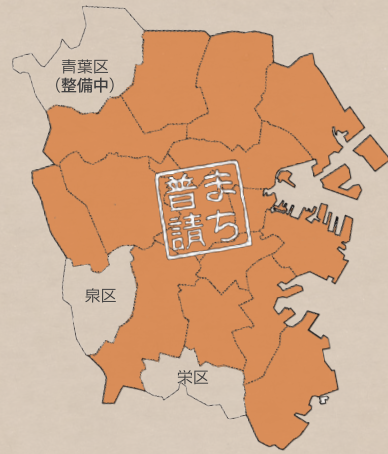
まちへ人がまちをつくる

発行：横浜市 都市整備局 都市づくり部 地域まちづくり課  
Tel 045-671-2696 Fax 045-663-8641 E-mail: tb-chiikimachika@city.yokohama.jp  
取材・編集：NPO法人 市民セクターよこはま  
Tel 045-222-6501 Fax 045-222-6502 E-mail: info@shimin-sector.jp

## 「まち普請」はヨコハマをどう変えたか？

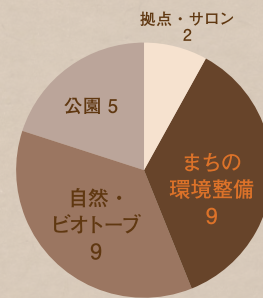
データ編

広がるまち普請 まち普請による整備事例がある区

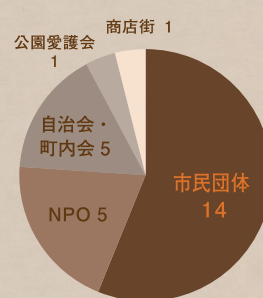


整備済みの25事例を分析してみました。(単位：件)

整備内容のおおまかな分類



提案グループの主たる属性



経験者の声 まち普請整備済み事例の提案グループにアンケートで聞いてみました。(単位：件)

実施：H23年7～8月  
回答：22件

まち普請によって地域のコミュニティの広がりや深まりはあったか？



まち普請による施設を地域で維持管理していく上での課題



解説



ヨコハマ市民まち普請事業部会(審査委員会)  
委員長 名和田 是彦氏

まち普請事業では、提案の練り上げや地域での合意形成など、一年間にわたって地域の方々に大きな負荷がかかりますが、それを通じて担い手が発掘され、地域社会が鍛えられていきます。最近では、誰もが気軽に立ち寄れる交流拠点の機能を持ったものをつくる提案が増えてきており、こうした整備を通じて、地域がより多くの人たちに開かれたものになり、仲間が広がっていくことが期待できると感じています。

平成23年度ヨコハマ市民まち普請事業2次コンテストは、平成24年2月4日(土) 10:30～15:30 開催予定です。

2次コンテスト対象整備提案

地域力醸成の拠点となる  
コミュニティサロンの整備 [金沢区]

湘南八景自治会役員と湘南八景「お助けマン」  
商店街の一角を購入し、誰もが気軽に立ち寄り、交流や情報交換ができるサロンを開設します。

阿久和北部見守り合い拠点・  
大きな傘「みまもり広場」 [瀬谷区]

阿久和北部見守り合いネットワーク実行委員会  
公園内に見守り合いの拠点を建設し、乳幼児親子や高齢者の安らぎ・交流の場を作ります。

1次免除提案

新観光地域活性構想歴史と  
文化のある街・お三の宮通り [南区]

お三の宮通りまちづくり委員会  
南区のお三の宮通りに「宮前の雰囲気を感じられるモニュメント」、「歴史・文化を紹介する案内板」等を整備します。

まちづくりについての情報を募集しています

まちづくりに関するイベントや参加者募集、地域で行っているまちづくりの取り組みなどの情報を下記までお知らせください。このページ及びメールマガジン「ヨコハマ人・まち」で広報のお手伝いをします。

<情報提供のあて先>  
横浜市 都市整備局 都市づくり部 地域まちづくり課  
Tel 045-671-2696 Fax 045-663-8641  
E-mail tb-chiikimachika@city.yokohama.jp

「ヨコハマ人・まち」のメールマガジンは地域まちづくりに関心のある方への転送、お誘い大歓迎です。

メールマガジンの配信申込み・停止は、下記のアドレスからお願いします。  
<http://ml.city.yokohama.jp/mailman/listinfo/hitomachi>

「ヨコハマ人・まち」バックナンバーはこちら  
[http://www.city.yokohama.lg.jp/toshi/chiikimachi/hitomati/back\\_num/](http://www.city.yokohama.lg.jp/toshi/chiikimachi/hitomati/back_num/)

今号のテーマ

## ハードとハートの熱い関係

### まちの環境整備と地域コミュニティが生み出す相乗効果

「災害に強い住環境をつくり、安全で快適な生活を送りたい。」  
「ライフステージや社会状況が変わっても、安心してこのまちで暮らし続けたい。」  
誰もがもつこんな願いは、まち全体の課題でもあります。  
ハード(=施設整備)の改善とハート(=コミュニティ)の充実を目指して、立ち上がった人たちとその取り組みを紹介します。

住民協働で、災害に強いまちづくりを実践中!

市場西中町  
(鶴見区)

ハードとハートの取り組み紹介  
その1



旧東海道



防災訓練



今夏の祭礼

市場西中町  
(鶴見区)は、  
こんなまちです!



市場西中町地区は横浜市東部の鶴見区内にあり、南北をJR線と京浜急行線に、東西を川崎市と鶴見川に囲われています。旧東海道の街道筋を中心に発展してきた歴史的、下町的な雰囲気と人間関係の良さが残されています。一方で、公園などのオープンスペースや緑が少なく、狭い道路や屈折した路地が多く、耐震基準を満たしていない木造住宅も多く残っていました。老朽化による家屋建替えや集合住宅の新築をきっかけとし、新旧住民、世代間の壁のない、よりよいまちをつくる機運づくりが必要でした。(次のページへ続く)

# 住民協働で、災害に強いまちづくりを実践中！

市場西中町  
(鶴見区)

## 活動のプロセス

### 1 勉強会の開始

平成15年、まちづくりについての勉強会を実施しました。家屋の耐震改修の必要性、災害時の救助、避難が困難な狭い道路の危険性など、毎回客観的な防災情報が得られました。

### 2 まちづくり協議会の設立

勉強会を毎月1回、1年間継続して、協議会を立ち上げました。「防災まちあるき」とワークショップ、住民の意見募集などを行いました。

### 3 防災まちづくり計画の策定

まちづくり協議会が中心となり、災害に強く、安心して住み続けられる住環境づくりを目指し、様々なルールを盛り込んだ計画を作成しました。

### 4 環境改善・整備の実施

テーマごとに確実に整備を進めるため、「いえ」「みち」「まち」の3部会での活動を開始しました。いえ部会は火災報知機の設置やテレビの地デジ化のための業者紹介などで、各家庭を回り活躍。みち部会は歩道のセットバックで最初に実績を作りました。まち部会は子ども会などを介して住民のアイデアを活かし、手作り感あふれる公園作りを実現しました。



きらきら公園整備前



きらきら公園整備後

## 市場西中町まちづくり協議会

お話をうかがった方



会長 森田 洋司さん(64歳)

防災まちづくりは生まれ育ったまちへの恩返し！



副会長 岡田 勝弘さん(65歳)

経験のないことに取り組める、我がまちづくりは面白い！



事務局長 小室 茂夫さん(69歳)

役に立てればと始めた協議会活動。まちへの愛着が深まりました。

## ハード作りにはソフトが必要

～物理的な環境整備とコミュニティ形成の相互作用～

### 協議会も自治会も、目的は一緒！

ハード作りを目指すだけでなく、多くの住民の参加・協力を意識した活動になりました。災害に強いまちづくりにはハード・ソフト両方が必要だと実感。

### 支え合いの必要性を再認識！

整備へのアプローチのために、各家庭を回ったことで、高齢化や経済的な問題など新たな課題発見につながりました。また、具体的な目標を持ってみんなで取り組むことで、苦労しながらも協議会で活躍する人が増えてきました。



### 新旧住民がともに、まちを愛せるように

一里塚広場の整備など、歴史的な視点を活かした協議会の取り組みが、まちへの愛着を深めています。昔から続くお祭りには新しい住民やまちを離れた人たちの参加が増え、新旧住民交流の機会となっています。

## 歴史的資源と情報を継承し、さらなる環境改善へ

現在協議会は、必要に応じたプロジェクトを組み、「いえ・みち まち」の取り組みを継続しています。昭和33年に起こった鶴見川の氾濫の被害を知っている人は少なく、防災訓練などで古くから住んでいる人がその危険性を伝え、共有しています。過去の教訓を踏まえ、このまちの安全を守るための防災ハザードマップ作りも行っています。

## ハードとハートの取り組み紹介 その2

# まちづくりひと全員集合!! 「まち普請」はヨコハマをどう変えたか?

整備内容  
エピソード編



まちづくり

市民の皆さんが地域の特性を活かした身近な生活環境の整備を考え、自らの手で作り上げる「ヨコハマ市民まち普請事業」。2回の公開コンテストで選考された提案に対して、最高500万円の整備助成金を交付する事業です。

平成23年10月16日に「ヨコハマ市民まち普請事業」の当該年度の2次コンテスト対象グループと前年度に整備を行ったグループ、そして平成18年度当初からこれまでに整備したすべてのグループに声を掛け、集いを行いました。

## 公園

公園内に活動拠点をつくり、地域のコミュニティ形成の基地としたり、水路整備・雨水タンク設置により防災に備えるものなど、公園に新たな機能を追加しています。

### 整備内容

活動小屋、茶室、集会所、防災放送施設、雨水タンク・地下貯水槽、倉庫、交流広場

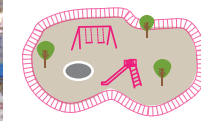
### エピソード・成果

- ・最近では放射能のことで問題が起こってきた。運営者は指針が必要。
- ・まち普請を進めていく上で、地域との連携やつながりが出来た。思いの違いが町内で整理、統合できた。

### 整備例



地域住民で普請した遊歩道へのレンガ道(西区)



4つのカテゴリーのグループで話し合い、成果を共有しました。

民地や小学校などにビオトープを作ったり、水路を作って虫を飛ばせるなど、市民の学びや憩いの場を整備しています。

自然・ビオトープ

### 整備内容

ビオトープ、雨水利用施設、斜面緑化、水路、森林の管理、休憩所、井戸設置、林

### エピソード・成果

- ・総合学習などで子どもも入れる。企画段階から巻き込むことも可能。



### 整備例



左：枯渇寸前だったトンボ池をよみがえらせた井戸(金沢区)  
右：古木の伐採等により、明るい散歩や体験学習の場が生まれた。(瀬谷区)

## コミュニティカフェなどの地域コミュニティづくりの拠点を整備しています。

### 整備内容

コミュニティカフェ



### エピソード・成果

- ・震災の際「さくら茶屋」へ駆けつけた。スタッフから「閉店するのでなくこういう時だからこそ店を開けよう」と声が上がった。
- ・異世代が交流することで相互の見守りとなる。
- ・ボランティアの巻き込み方は、やりがいや達成感を感じさせるテクニックが大切。10年、20年やっていけば人は育つ。

### 整備例



左：駅前にないトイレをアピールし集客を狙う。隣の障害者地域作業所のパンが店内で食べられる。(鶴見区)  
右：いつも多くの人でにぎわうコミュニティカフェ(金沢区)

### 整備内容

雨水利用タンク、植栽、ベンチ、特大将棋台設置、ライトアップ、シャッターへの描画、道路への描画、相談ルーム、リフト、休憩所、看板、多目的グラウンド、広場

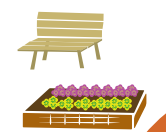
### エピソード・成果

- ・2次コンテストにむけて、みんなでいろいろ議論したことが、整備後の活動につながっている。
- ・まち普請整備後に維持管理をする中で住民同士がつながってきている。最初反対していた人も、完成したら何も言わなくなって資金集めなど協力してくれている。

### 整備例



国有地を市民が整備した珍しい例(鶴見区)



まちの環境整備

## ※ いえ・みち まち改善事業

横浜市では、防災上課題のある密集住宅市街地(23地域、660ha)において、平成15年度から、住民との協働により、地域の防災性の向上と住環境の改善を図る「いえ・みちまち改善事業」を進めています。災害時の安全性の向上を目指しながら、地域の様々な課題を共有し、住民・行政などが連携して、まちづくりに取り組み、実践していく事業です。市場西中町の環境改善に関しても、各プロセスにおいてコーディネーターの派遣によるアドバイス、活動助成、事業助成などの支援をおこなっています。(詳細は地域まちづくり課HP <http://www.city.yokohama.lg.jp/toshi/chiiikimachi/iemichimachi/>)